

2025年11月1日

神戸学園都市 YMCA こども園 11月えんだより

11月の聖句「神は愛です。」

ヨハネの手紙Ⅰ 4章16節

「今日は、暑かったので園内で過ごしました。」近年、お迎えの保護者の方と園の職員がこのような会話を交わすことの多い厳しい暑さからようやく解放されましたが、こしばらくの朝夕の冷え込みは少し体にこたえるように感じられます。秋が駆け足（猛ダッシュ？）で過ぎようとしています。それでも子どもたちは、芋ほりや公園での秋の虫探しなどを通じて短い秋を体感しているようです。これからも四季折々の変化の楽しみが続くことを祈りつつ、毎日の生活を楽しめればと思います。

「抱っこは心の安定剤」随分前のことになりましたが、たんぼぼ、ちゅうりっぷ組の子どもたちの中で子どもの「噛みつき」や「驚づかみ」といった行動が増えたことがありました。おもちゃの取り合いや先生の膝の取り合い等々。原因は様々ですが、言葉の発達がまだまだ未熟な1・2歳児さんは、自分の思いを伝える方法の一つとして「噛みつき」や「驚づかみ」といった行動を選択します。この時の思いは「喜び」や「満足」といったものではなく、「怒り」や「不満」といったもののようです。この時、このような行動を減らすために全職員で取り組んだのは「抱っこを増やす」というものでした。なるべく時間を見つけて、担任以外の先生も子どもたちの中に入り、「抱っこ」する時間を増やすようにしました。すると、子どもたちが徐々に落ち着きはじめ、「噛みつき」や「驚づかみ」などが少なくなっていました。

「抱っこをし過ぎるといつまでも自立できなくなる」などと言われることもありますが、そのようなことはないと思います。「抱っこ」は、その行動そのものが子どもの成長に必要なのではなく「抱っこ」という行動が子どもに与える「安心」「安全」といった感情が必要なのです。この「安心」「安全」が満たされると、おのずと「怒り」や「不満」といった感情は少なくなっていくのです。そして、子どもがこの「安心」「安全」といった感情を得る場面は、成長と共に「手繋ぎ」そして「見守り」などへと変化していきます。この変化に合わせて、「抱っこ」の時には存分に「抱っこ」を。「手繋ぎ」の時には存分に「手繋ぎ」を。子どもたちが望むものを望むときに望むだけ。そうすると子どもたちは「見守り」になっても安心して、安全に未来への歩みを続けていくことができると思います。

神様は、ひとり子イエスを私たちの罪の償いのために遣わしてくださったほどに、いついかなる時も私たち一人一人を愛してくださっています。「抱っこ」や「手繋ぎ」のように直接触れて感じることはできませんが、大きく豊かな神様の大きな愛を感じつつ、互いに愛し合うことを大切に毎日の歩みを進められればと思います。

11月	乳児 (0,1,2 歳児)	幼児 (3,4,5 歳児)
月主題	みつけた／じっくりと	神さまありがとう／気づく
月の願い	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者の祈りや讃美歌を通して神さまを感じる。 ・やりたいこと、興味があることにじっくり取り組み楽しむ。 ・自然の恵みに感謝し、遊びや生活の中に取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・庭の木々やまわりの自然から秋の深まりを感じ、秋の収穫を神さまに感謝する。 ・友だちと気持ちが通じあう経験も、折り合いをつける経験も重ねながら、友だちと関わって過ごすことをより楽しむようになる。また相手を思っている行動をしようとする。 ・自然物を見つけたり触れたりしながら、遊びの中に生かそうとする。
讃美歌	「おほしがひかる」こども改77	「あなたの平和の」聖歌集増補版1